



～ウリチング 2015～ 日韓協働環境プロジェクト



●プロジェクトの目的

5月に行われた日韓海峡海岸漂着ゴミ一斉清掃に参加した際、ペットボトルの国別調査を行った。調査の結果、ハングル表記でかかれたものが全体の47.9%という非常に高い割合を示していました。そこで、私たちは韓国の学生と環境フォーラムを開き、国境を越えて、両国共通の課題であるゴミ問題について考える機会を設け、日常生活の支店から改善していくきっかけを作ろうと考えました。

●活動報告

<通じら祭り (2015年7月19日)>

→環境アンケートの実施、漁師さんへのインタビュー、港沿岸清掃



↑くじら祭り

くじら祭りが行われている長門市は、くじら繫がり韓国蔚山広域市と深い交流があります。私たちは、祭りに参加し、古式捕鯨の見学や和戦競漕に参加させて頂きました。また祭り終了後には、漁師さんへインタビューをし、昔と今の環境に対する意識の差について話を伺いました。また、海岸にも「魚のアラ等を海に捨てない様お願いします」という看板が設置されていたことから、昔はアラを海に捨てていたことが読み取れます。その他にも、環境アンケートや港沿岸清掃を実施しました。

<海岸清掃・海底ゴミ調査 in 長門 (2015年8月21日)>

→海岸清掃、サンプリング、地引網による海底ゴミ調査

日韓の学生合わせて約50人で海岸清掃を行いました。また、この日は漁師さんの協力のもと地引網による海底ゴミ調査も実施しました。ゴミの多くが、家庭ゴミ（ペットボトルやカン等）や漁業関連（発砲スチロール等）でした。日本のゴミだけでなく、韓国や中国のゴミもあったことから、改めて日韓協働で考える意義を感じました。



↑毎羊清掃の様子

<環境フォーラムの開催 (2015年8月23日)>

→海岸清掃の活動報告、日韓の学生によるプレゼンテーション、環境ディスカッション、誓いの木の制作

これまでの活動のまとめとして、カリエンテ山口にて環境フォーラムを開催しました。

フォーラムでは、上記の活動を振り返るとともに、昌原市と山口市のリサイクル方法の比較など、韓国の環境問題の実態についてのプレゼンテーションを韓国学生に行ってもらいました。その後のディスカッションでは、海岸清掃や海底ゴミ調査で感じたことを共有したり、リサイクル率を高めるにはどうしたら良いか、ポイ捨てをなくすにはどうしたら良いかについて話し合ったりしました。学校教育に環境に関する授業を盛り込む、リサイクルBOXの設置を増やすなど様々な意見が飛び交い非常に有意義な時間となりました。「誓いの木」ワークショップでは、各自が今後の生活で気を付けていきたいことを葉っぱに書き、それを誓いとし、一本の大きな木を完成させました。



↑ゴミを分別している様子



↑環境フォーラムの様子

●今後の活動

プロジェクトの成果をより多くの方々へ知ってもらうために華月祭での展示を計画しています。展示を通じて、ゴミ問題の現状と課題、そしてこれから自分になにができるのかをぜひ考えてもらいたいです。



↑韓国人学生による
プレゼンテーション



↑誓いの木